※令和３年度以前入学生用

学校番号	２２０１

令和５年度　芸術科

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	２	年次	２～４
使用教科書	高校生の音楽２（教芸）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「歌唱」「器楽」「楽典」「鑑賞」の４つの分野を年間通して学習します。
・のびのびとした美しい声での歌唱、キーボードなどの新しい楽器の基礎技術の取得をめざし、アンサンブル等の課題へ積極的に取り組み、音楽を楽しむことをめざします。
・学習の到達度は、実技テスト、筆記テスト、ワークシートの提出、出席等の平常点などの総合的な観点から評価します。
・音楽が、学校で学ぶだけのものではなく将来の学生たちの心の支えとなり、生きていく力となることを願っています。

２　学習の到達目標

のびのびとした美しい声での歌唱、キーボードや新しい楽器の基礎技術の取得を目指し、合唱・アンサンブル等の課題へ積極的に取り組む姿勢を養う。音楽の幅広い活動を通して、総合的な音楽の技術を習得し、創造的な表現と鑑賞の能力を身につける。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	b:音楽表現の創意工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとする。	歌唱、器楽、アンサンブル等の音楽表現をそれぞれ工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについての表現意図をもっている。	意工夫を生かした音楽表現をするために求められる歌唱、器楽、アンサンブルの技能を身に付け、創造的に表現している。	音楽を形成している要素や楽典の基礎知識を理解するとともに、西洋音楽の起源から現代音楽に至る幅広い音楽的背景を理解している。
評価方法	観察 ワークシート 演奏	観察 発表	観察 発表 実技試験	観察 ワークシート

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	月	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期	4 5	基礎を応用して楽典を学ぶ。	これまでに学習した基礎楽典を応用して調性の理論や音楽の構成の基礎を学ぶ。 西洋音楽で用いられている調性の理論を学習することにより現代音楽へのコードの理解も深める。	○	○		○	a:　音楽のもつ様々要素を心身ともに感じ取れるように主体的に取り組もうとしている。 b:　音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質を感じ、音楽的な構造の美しさや、和声感を感じることができる。 d:　コード理論や音楽の構成等楽典の知識を理解し読譜することができる。	観察 ワークシート
	6 7	歌唱を通して発声を学び、合唱の楽しさを感じる。	【歌唱】 イタリア歌曲 ドイツ歌曲から数曲 【合唱】 アカペラによる合唱と NHK コンクールの課題曲等親しみのあるものから選択して三声もしくは4声の混声合唱を行う。	○	○	○		a: 歌う喜びを味わい、イメージをもってのびのびとした歌唱法で歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 b: 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気や特質を感受しながら、歌詞の内容と関わらせてどのように歌うかを工夫している。歌詞を大切にし、その意図を感じ取っている。 c: 表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。	観察 演奏の聴取
	8 9	ギターの演奏を深めよう。	【器楽】 さらに多くのギターコードをマスターし転調奏も行えるように取り組む。 Tab 譜による「禁じられた遊び」などの楽曲に取り組む。	○	○	○	○	a: ギターの様々な奏法の特徴に関心をもち、主体的に取り組もうとしている。 b: 旋律とギターの奏法が伴って曲の雰囲気などを感受しながら、表現を工夫している。 c:　ギターの基礎的な演奏技能を身に付け、創造的に表現しようとしている。 d:コード奏の論理や tab 譜の読み方を理解している。	観察 演奏の聴取
後期	10	近現代音楽に触れよう。	【鑑賞】 戦争ソナタ(プロコフィエフ) ラプソディ・イン・ブルー(ガーシュウィン) ビル・エヴァンス、オスカー・ピーターソン等のジャズ音楽	○			○	a: それぞれの曲が作られた国や郷土、時代背景に関心をもち、に主体的に鑑賞に取り組もうとしている。 d: 音楽を形づくっている要素を個別具体的に学習し、曲の構成や形式、それぞれの時代背景を理解している。	観察 ワークシート
	11	キーボードを学ぼう。	【器楽】 キーボードの基本的な奏法を学ぶ。大譜表を理解すると共に、メロディーと伴奏の基本的な関係性も理解する。	○	○	○		a:キーボードの基礎的な奏法の特徴に関心をもち、主体的に取り組もうとしている。 b:旋律と伴奏の融合することによる曲の雰囲気などを感受しながら、表現を工夫している。 c:キーボードの基礎的な演奏技能を身に付けている。	観察 演奏の聴取ト
	12 1 2	アンサンブルに取り組もう。	【器楽】 これまで取り組んできた器楽を用いて器楽アンサンブルを行う。自由にグループ分け・選曲をすることにより、主体性協調性を育てる。	○	○	○		a: 器楽アンサンブルに関心をもち、その特性を生かして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 b:器楽同士の旋律と伴奏の関わり合いを感知し、他の生徒との連携の中で自身の役割を感知しそのイメージを共有しようとしている。 c: アンサンブルの美しさを表現するための基本的な器楽の扱い方や技巧を習得している。	観察 演奏の聴取

※　表中の観点について　　a:音楽への関心・意欲・態度　　b:音楽表現の創意工夫
c:音楽表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。